

戲作

四書京傳餘師

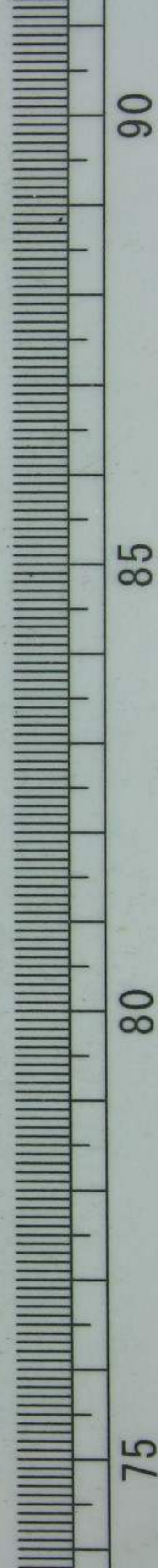
山東京傳著

大樂通用

西垣文庫

文庫10

6747





山東京傳翁著
戲作

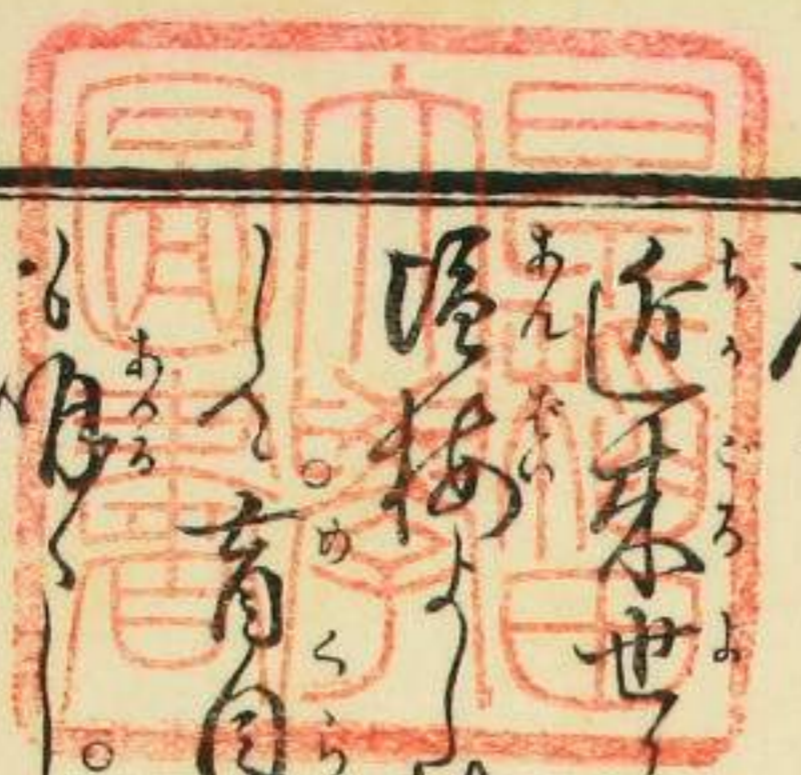
四書京傳餘序

大樂
通用

豊後
申シ

序

序
行牙未せし行する。経典録のよま書と関し。
唇梅より。能かべんより。上より。ゆまより。新書録と
育自の杖園。杖の提燈。思園系八兵衛と
も。土平。おの。所。も。以。て。使。入。れ。火。門
り。至。ら。し。む。の。も。や。藍。丸。ハ。妙。志。し。り。の。行
な。つ。は。雖。然。輪。坤。で。う。癡。呆。如。の。使。後。ハ。
別。深。の。井。を。ど。つ。る。ま。の。ま。か。ら。は。た。高。能。名。ど。い。手。
石。橋。固。木。曾。海。名。近。き。の。振。舞。も。な。る。所。を



京傳余序

序

三三三三三

芝蘭の室。鱧魚店よりかんごを一つ、
 寛政二年庚戌孟秋。魚の物。おちが鼻をいんする
 鱧魚。道はね云爾

寛政二年庚戌孟秋

山東市隱 京傳自序

文庫10
6747

戲作四書京傳予誌

目録

西垣文庫

大樂

大樂ハ月雪花をおき、おつひ色と酒と
 みたのんをたるとをあらざるをいふ

通用

通用ハ質物の通用物の事、あつてひん
 らんの女郎買をいふ

豊後

豊後ハまぐら江戸げのやのこんどち
 をいふ

申

申ハまぐらあんの申、あつてあつて
 あつてあつてをいふ



京傳餘市

長三堂痛松



京傳餘市

長三堂痛松

京傳予誌弁言

近來著書刊行之盛。前古所未曾有也。經史百家有用之書。暫措
 釋史小說。殆似無益者。亦陸續刊出。屋上架屋。不知者以為害。而
 識者有取焉。夫稗史小說之裨益於婦女童蒙。不鮮少矣。是金
 聖歎所以評訂水滸傳三國志也。歎同業鈴木君。年々魁春。著
 兌野史多種。每得雅評。是雖由君精選刊書。抑亦非有大方吹噓。
 曷克至此。今茲所刻題京傳予誌者。則係京傳翁擬經典餘師。
 而所載筆行文諧。體道。愚發。余知其決非無用之書也。識者
 一讀。必信余言。不誣。伏望博雅君子。賜購覽。重辱高愛。判語何
 崇。過之。當君微一言。書之以辨。卷首併代君謝愛顧。諸君云。

明治十八年三月扶桑橋南西涯畏三堂主人識



大樂

意氣狂句

堅衆曰大樂功者之虛言而
 兎角入欲門也於隙可見通
 人為樂氣質者獨賴金銀之
 損而貧乏次之客者必由是
 而迷焉則庶乎氣差矣

それ大樂のうらむをうらむ春ハ名川の汐干よ何そび

て身代のひらこあるも思ひまじき志の測の深ふ
 まあり。てまんてんてんてんてんてんてんてん
 ちどめくもどろけどもどろけどもどろけども
 辰山花鳥山の花見よ替閑養老を引まじき法
 行皇帝の種よりもやたむやう小敷くくる
 花のりを合ひ武家方の血氣盛あるん喜色こん
 うど紀とド先のよまやうらんまじきむがん徳のい
 らぬたのーとまうけ一日金一かの信鳥よ報亦く
 を濟の游ぶもあつりまいたちまら心の弱のまづかゆ
 るまて大門口よはあぐ中の町のあ橋の寛保の昔よ

かすねど人おすドからざる寢せの君がむびくた
 の蒸粉餅の山をな一橋もひよんあへくうら
 きてまじき花よえんてんてんてんてんてんてん
 ま紫山時をるゆ聖魚うりもくのまよとめて心
 ついでのう夏がまじきまじきまじきまじきまじき
 くの岩清よまぬけのーの客人とるゆまじき岩清の
 るまじきうをトーとれつあつら二まじきんてん
 がむらひもまじきまじきまじきまじきまじきまじき
 おまじきまじきまじきまじきまじきまじきまじき
 おまじきまじきまじきまじきまじきまじきまじき

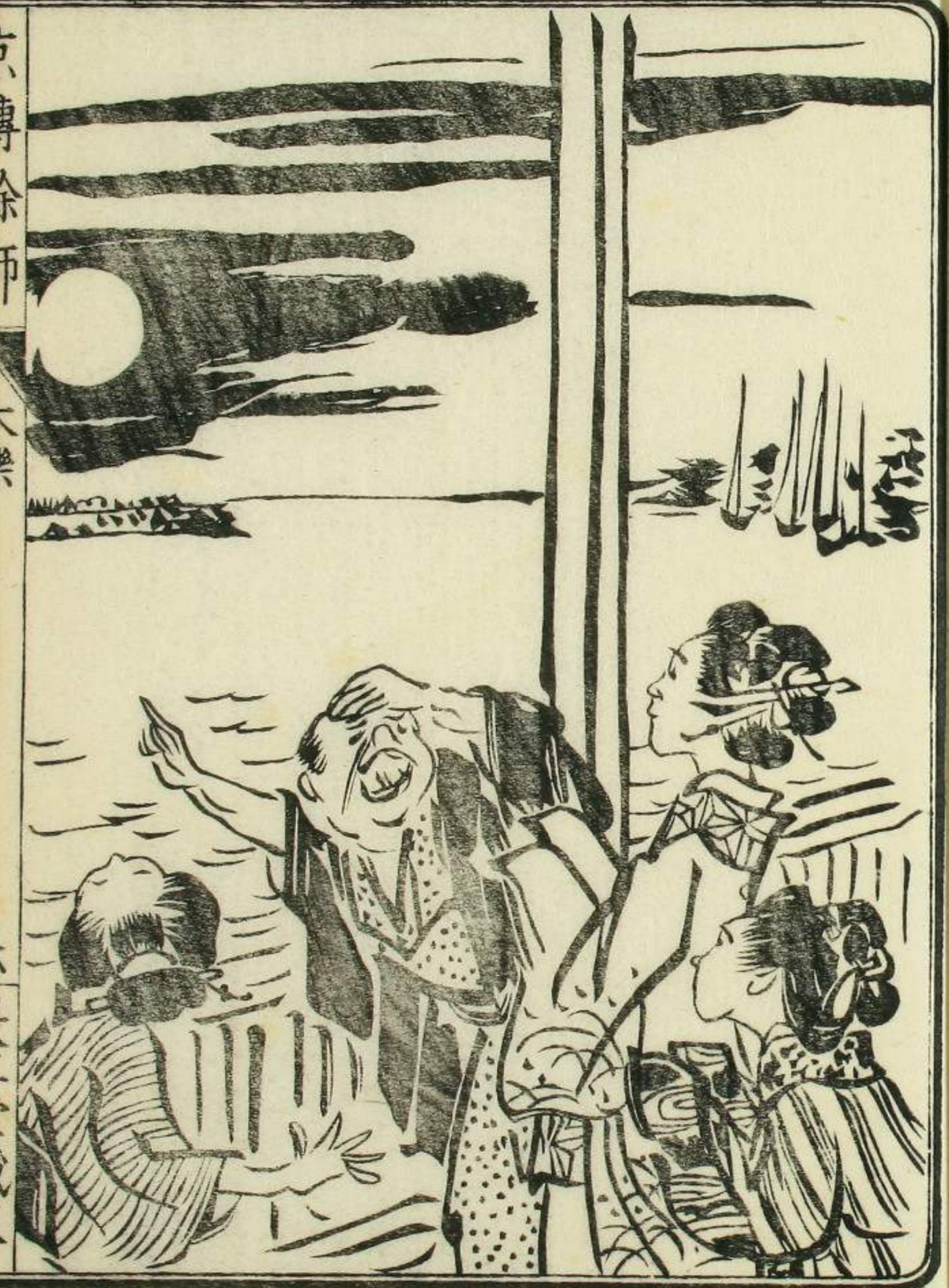


よいイエ〜方船おまきせんでいござりのませぬと
 のとどある〜ハは江をさらりぬるゑい古忍一ツ春ニツ
 のとつゝの酒が人をものんぐ宿の車ハ子、ま、れ
 川つ流して志まひまきしひ水よそをまてとのお
 碇をおろし木乃伸とらが蜜人よあつ〜遊ぶも
 わり夏もる雲水よ遊舟をうこのの江戸流る者のひッ
 こぬきとつ〜みだんおひらりお祓八人この
 人数舟をまきぶらそ涼うなと口をさむそがらのら
 三弦にてう〜びき〜のたさをささのせん
 より陸よは舟をさ〜わ〜る隠者と思〜ま〜が〜舟

君あはるる花あはび蝶おどろくとも人不知と流
 の意いふくとも盛者必衰の及理を志らぬま
 そづや千住の悪臭をうのくさ女を身は紫と
 云とらふふきがつらぬ俗おどりのあの中ふさ
 ぐもまお鼻翳の戯き下ややんよんまでいあるぞ
 と憂世を悟り形あるも実の穢あし絶のまげと
 一とを拵まのそんあめつてこ思ひぢかか一のふ
 感るも根が己が心の欲るあふあささづのぼそらば
 をゆぬあつこの述懐ぞか一は臨者も穢があらば生
 若必滅の場あくまもつるやど隆くらあをと評する

も岡焼餅の溜をまぐ一むう一の目もくまぬまや
 舟よのまことい一がは舟の目もくまぬあうら何ぐり
 て呑まをきんと津波の何あが水室よと知て隅
 田堤のちふこそそまぎらす中田屋うむさ一やうたじ
 の舟をのつこのむせくま後の玉屋このみさうら
 清とつらもあまも酒色のニッふのこことまうらなり
 文月の廊の燈を眺み何を思一のし惣角よ持が
 あまをるともあう一周夜とあしん糸色を一新毎
 小とのつらぬるてうまん客人の身よりあうられ
 出一金むうとうたがひ唯人の氣をつらあぐるせんま

いどあけあり茶客の目を押さるるせさらふ内幕の
 からくりとあそびまじりぬ張の煙籠のさつてえぬ色
 ど女郎の落情ある物のうらみさこもるど二の
 うらみ硝子細工の石君をささるふつらたたくと
 あもえるこそまもそのおとりの正徳のむら中万字屋
 の玉葉が遊苔のこあふとやーまめーまきと今
 いそまふひきうらうらと人をも迷もは煙籠のあうだ
 ちとんをまら近來附合の匂よそをとりつるあり
 くるりののうらうらと煙籠のさのくさこゆこふむん
 まり十の夜の月えよのまらむは舞まきも今宵の



月をめでし詩を作り舟を添ふを梅を梅を梅を
 け夜色里の玉灯をひらてふさらありけ日深川八幡の
 祭礼うけく土橋仲所三橋新古の石場ふけり中を
 一年の大紋日月えと祭礼とを兼備する遊び千
 日ふつて茅も一夜ふやろやろつけのやせとあり
 のろの百姓とある店者あまび百日の洗法も尻一ツ
 又放る隙をひらくか寺極ありこそぞま如の月ふ
 何れぞつひまの隠居の月えとあらきたり旅行の
 月も一風流と南隣の傀儡ふらふらとあね坂村田
 新叶己がさあぐ脚六の気位よなり髪のみけの

るうら安房上総の月えと真ト田毎よりを車と
 かんごくく君えさる伯母捨ふあまが日業をさしじ
 あまでも次広ぬあまらららと扱と氣いむせう
 又言痛のまらうらぬる海をららて扱ふもあり
 そ外扱ののきかある色里まで月の光りのりとの
 あしてまお急の月えとるあまが三橋の月ハ
 今さらいのもあま今までありつる息子とりぐ化粧の
 ええおらうしてまての鬼住屋ふけり中を丹楓の
 錦より西の紅圍の錦ふらふらとあま又こらてら

まど文の雪うんとてお根あふ居火燵うらきふあ
 らぬあんのうり晋の謝安よすけぬれど別深の妓
 をさづきさるるふころんぶあまぞこりあふよよくか
 るひごど中が傍よりむらふ傍のこころ浮舟のふら
 きもえりあふなりま秋の角力こつての戯場杉田の
 梅えいの傍の月見玉川の祐祐あふのぬきふえ金活
 の香えい香おろくのあいかどくろがくは是天地と
 りお細五人のちうらうりまてたのこつてあふあ
 ちうまごどもあふ月雪花のこつてあふむとこひあがく
 つまらこころの女色やどのあふあふあ一月のさくら

とく女郎の拍の鏡あふあふああ白あふとて抱て
 痛たあもあふ花ののまわむらぶくくくく
 口舌もあふくばそまよりのも眉の月を中う肌あ香
 をあざむねあふ花をまらさせあふくくままてあ
 むららぬあふ人をもえくたのむらどあ何ぞあうふ
 あああらんや花よりあ子色をまよりああああああ
 鐘年よはままこ人のまあああああああああああ
 女色のああああああああああああああああああ
 あああああああああああああああああああああ
 女色はくけるああああああああああああああああ



高橋館蔵
八野三堂藏

ま子衛の君が女よのりまをそとへつれつづと地をふ
 のむりの色をあのむが如くはるものせとびとて回
 たり兎角推がくたはけ屋の迷ひとまゝもきたり行
 ども富足の口ろちありと地あるこのとまゝとて
 も難し花がうつくしくいとくおきふは居續もあはせ
 月の明ありとて引窓うらえとては真もあしとまゝ
 りおも面ありとてまゝもあはたのいとく女色ふとむ
 るとらひひあがらつまることとらをありをさくは
 山あまむるあかるも奇文と思もまの甲はらもま
 えく鶴ふのり鯉あまど船軍うら物をむしるを

高橋館蔵
 八野三堂藏

河内金部 通月 三畏堂藏

其夜爲千里語之則渡苦界
省連則恨藏於店下畧

そま通といふんぞ列子いふことあり徳をのりて
人小らうつ之を聖人と謂れ徳をのりて人小らうつあまを
通人と謂といふ言こづつけくえまびよく今の通と称
する若よあつまの徳もいふも金瓶ののりまふゆいで
も活いよ持く居るなり気質いあく難は唯通と世
まとの差別を知るをいふ通と謂い通と世まとの
差別をいふがらむ世まといふん予らふ通用の二

字をいふのまふかききたんをいふ風陳せんま万里
を井といひ井を十あをせく通といふ是をのりて考
まばふ万の外のまでもよくせうちらむと通とまじ
又書の首よりきられくのくままでも金といふまふ
たのりて記するな記を通といふべし如茶よこと如六道
あり井は圓通あり衆の仙人も通をういふあて下界
たまけと衆も通方うせての麴町の市小ささらさる
吉原通深川通芝居通といふもよくまをいふる
をいふべし又用の字をいふん天地全功あり衆あ
金用あり又人よ用ありと人用らむ時わ女もた

京傳余而 通用 三畏堂藏

ちまうち西新造松とあどづき用らまぶる時ハ鯉
鱗も魯人の古傘よ色中ま牡丹紅葉の類とあら
ん又傾城の言よを泥をゆそそ〜紋目物目をた
のむらまを熱く用とらあなり又意用りこつたる
丈よ用のあつたため〜海産の山用沖用のわら
車取こま字よのりつとも流お〜又通用とつ〜時ハ
篋物の通目物のりありこれおつ〜日一ツの青
澹ありあふ表法を馬も〜といふ考ありま身代ハ飯
器よ車を志りもる〜らあの〜ら〜なまが何〜ら
らぞ一燈ハ傾城買よ身をゆ〜ね〜花よめで月お

うらまをあもあのび嵐あも海ひあまの鼻ひ〜ら
ねが者の時居をま〜とせぞえ旦の産のた地穴よ
り方二十日の陰表あはひま〜で月雪花のこ〜浦園
の〜ふ〜七化を〜ら〜もその〜ら〜を
志〜而后のせお隠差ま〜て義痛の別業よ〜ひ
〜と孤獨の〜ら〜も世をあぢふま〜ね〜る〜あ〜る〜
されハ昔〜ら〜る〜軒屋流の三味線もらの根メよ
けま〜ら〜の酒もあ〜ら〜ま〜ま〜て〜る〜世を〜る〜チヨロ
の帯よ結びを都も〜安〜ま〜び〜ら〜〜不恒吉やの
燈管ふんのやあを通〜小人周居〜て石舌をあ〜

のしやうめを考ふとまねぬがらんもくも斤肌をのて
 肺さいのくりふをもちき徳のいまむくも外山とやまのうまもふ
 ひとくだんぐふまうくそくあり類ぬれあがも
 りう角うどとまきくゆつふ眠るも枕まくらをかとうらまら
 惟こぞ時宗ときむねふあらねが祐成すけなりが出男いづなあも何なにのま
 時ときあらねが池いけの水鏡みづかがみともかのをまきまをるうら
 と首くびを何なにぐまびこのそもりうふ吳郭いごかく吳形いごがたのむけお
 あらまをまき出いつり風かぜをかきかきくたをそく
 さたとんうらまきく湯ゆの息いきまきさるう糸いとをつらぬく
 鳥とりあたる一目ひとめえんうり気きも認たづひも天上てんじやう白しろ花はなとさくらふ人

ら地ちのあつまびくが彼化物かのまけもののちち改かへとがやれたがらうげ
 ある声こゑくくやけうのりうふ鳥とりまかあらまをそくくともあり
 きあつる春はる水のむうく海うみあむらびく平へい家の門かど
 もも何なにらむと化まじ物もの屋やの煤すす拂ふきくもあく信物しんぶつの標しるし之の世中よのちゆう
 たまけどののあふぶち殺ころされく魂目たまごめの袖そでをうけ七ッ屋
 のくらふあまぐめらまきくうかきもやらま流ながれもあまご迷まよひ
 形かたちとまやハケ月つきあむぐり史し者しやより信しんと云いおまねお娘むすめぞ
 戦場せんじやうふ人ひとあむあり信しん信しん又また言こと信しんあり信しんをせ信しんよとく
 とい女おんな房ふらうが自みづか後ごを切きすけの推おしえまあうして清水しみずの舞まひ
 春はると同日どうじつの海うみありむうくまる何なに業ごうの上うへ人ひととのや十じゆと

京專徐師

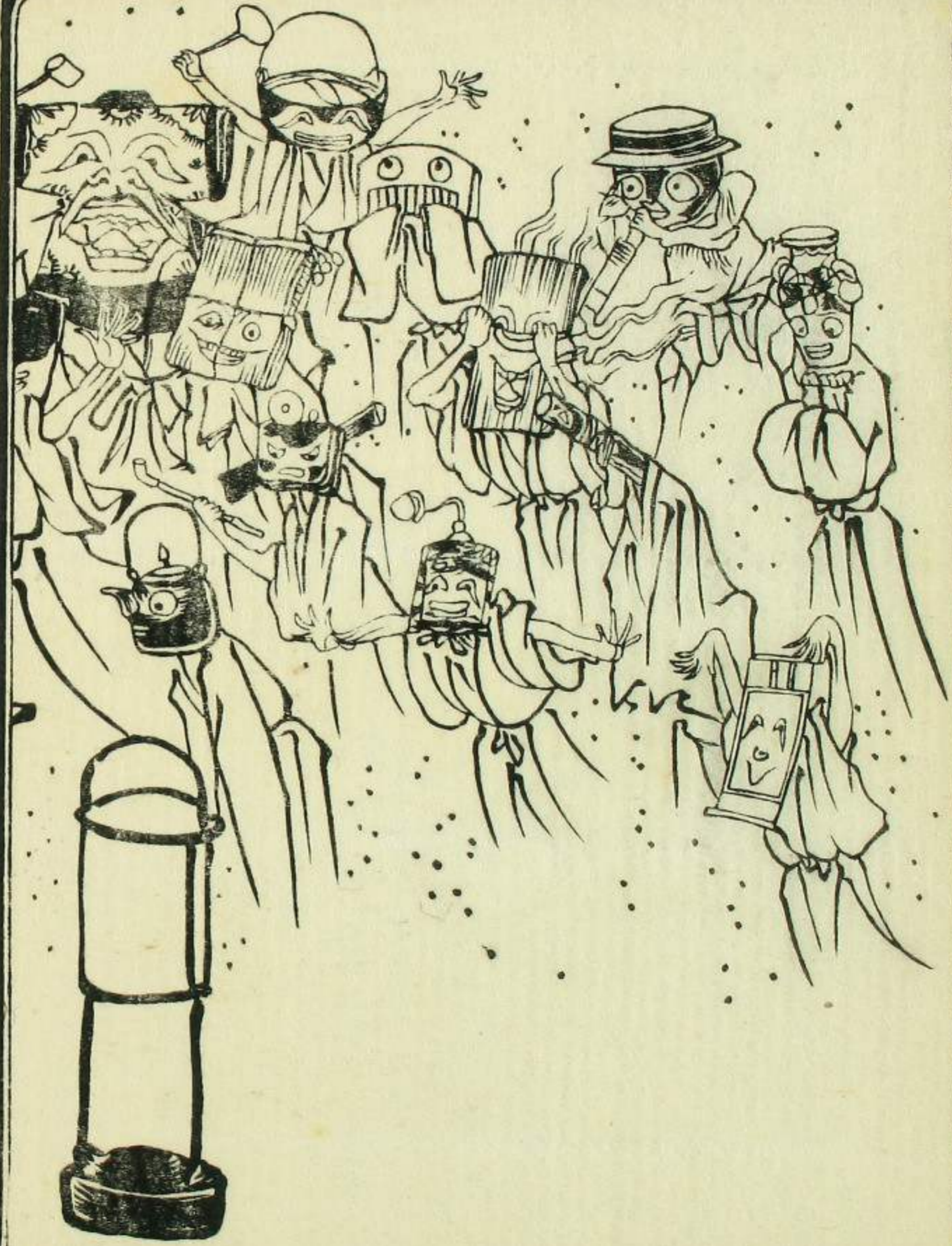
通用



十五日三堂及

京作鏡自

通用



十五日三堂及

鋪とのひ供物を典貨とのひ供れを商賣あぞと云倍
 後あり圓我の持色の身ぐらりふたもく喜まうんまんせ
 くらえ火急の難儀をさつふりのありふ今へのものまが
 故増ふ身そのちくごごーやーともされが我等をさるー
 ひる事ぞろー或ち女布を身おせん者お祝うらむづ
 らまーおお結をお供よのまそそ又女布もるまよる
 ひくさろ様とあり兼約下結禪中て供入して苦界
 十年振料屋の為ふるーむあり或いは御急の代
 お給をさるーめあが江戸ッ子の尻の穴の窟きあ
 隣家のとくどつをさるー金あがらあまを金ひゆうら

一人りの抱を人供ふ入く坊者よりちとみ入る儀
 のどろくひある者をこのとて富のれを男をさるー
 身入らりあらひつる仕合せの帯子を親もあ
 り武士のなすつらあらぬ大小もまげ出あひさるあ
 らの佛像までもまげさげお供物を並てうけるあ
 きい恩をうけく世を知らざるがどくありとて我
 つらつらあまば利あげをさまんよんまがもなまはげ
 身ハ籠よくひさるまつらひ小難の柳糸の干店ふさら
 さきんけ恨をさるさんまの貧乏神の末社とあり彼
 思ふおの徳がは園おひのりまく思おもとるーめん

一、身入り

一、長三堂

汝ハ其のもあやれもせうちの介なればけりやとわたり
 きりせせの中の不埒者どもお供せのりひらけのど
 さんあてのるに園重信をまぬやふらぬきせん
 修屋地獄のまに方且小志ぞ一のと中をこひこ
 せむあつとまもせむとぞやとヒウドロくのあまごり
 かまけまごりてあつとまごりて南風おあつと海月のお
 とくあつとりてとせあつとるあつとる始乃やごんかそり
 かりが修屋おれ出矣不達とひ一する古人多奇ある
 るあまごり信者ぞ速懐ありてあつとるあつとるをわづえ
 しを予よかりが修屋おの精がらひ一ぬくのしを

根の急用ありて修屋をまもるけりてあつとるあつとる
 思をうけひらけに工面をせぬるまもる思をあらぬふ
 あつとるまもる思の思をあらぬつとるあつとる
 身をあらぬまもる思をあらぬつとるあつとる
 を深よるあつとる思をあらぬつとるあつとる
 せむとあつとる思をあらぬつとるあつとる
 とせんよりつまる思をあらぬつとるあつとる
 かく修屋をあらぬ思をあらぬつとるあつとる
 平

早稲田大学図書館

011688985848